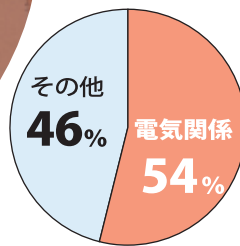




通電火災 **ゼロ** に!! 電気火災を

地震による火災の過半数は **電気が原因** です。



阪神淡路大震災や東日本大震災において発生した火災の過半数は、電気が原因でした。地震の揺れにともなう電気器具からの出火や、停電から電気が復旧したときに発生する火災を防ぐために、自動で電気を遮断できる感震ブレーカーの設置・配布に近年、国をあげての取り組みが始まっております。

※日本火災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成

安全・確実に電気を遮断

通電火災防止

取付簡単

備えて安心

電気工事不要



震度 **5強** 対応

コンセント型感震ブレーカー

一発遮断



本機 1 台の設置で家中の電気をすべて落とすので、電源が ON になったままの電気器具からの出火や、損傷した電気コードに通電することによる火災を防ぐことができます。

▶ 感震から遮断までの流れ

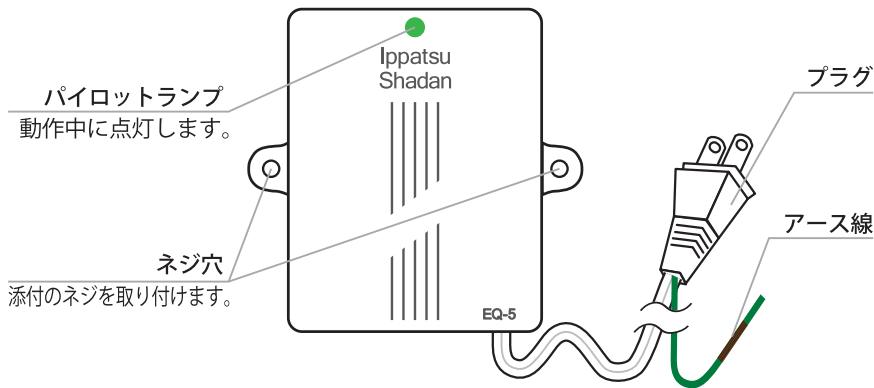


地震発生
震度5強
以上になると

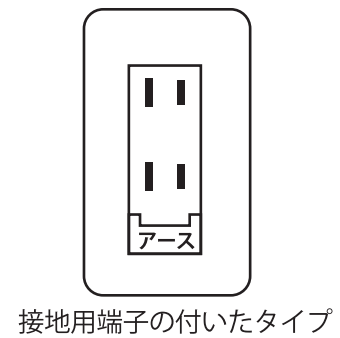
一発遮断が
疑似漏電を流します

主幹漏電ブレーカーが
落ちることにより
家全体の通電が遮断されます

各部の名称



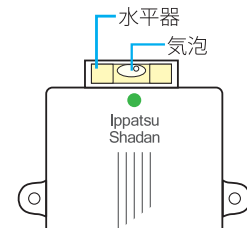
使用可能なコンセント



取り付け方

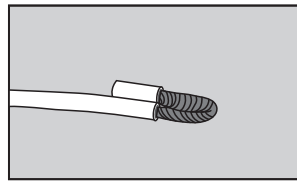
1：本体の設置

- ① 接地用端子の付いたコンセント付近の壁に、添付の両面テープを使って「一発遮断」を仮貼りする。(凸凹がある場所には取付けられません。)
- ② 「一発遮断」の上に添付の水平器を置き、水平が取れていることを確認する。(気泡が水平器の中央にあれば水平が取れている状態です。)
- ③ 付属ネジで「一発遮断」を取り付ける。



2：アースの設置

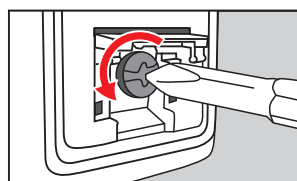
- ① アース線から剥き出しになっている銅線を軽く折り曲げます。



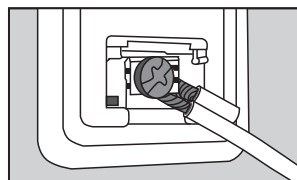
- ② アース線のフタを手前に引くようにして、ひらきます。



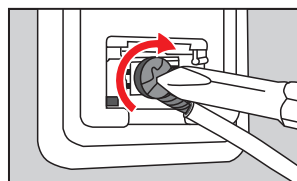
- ③ 中にネジ、その下に座金があります。プラスドライバーでネジを反時計回りに回します。



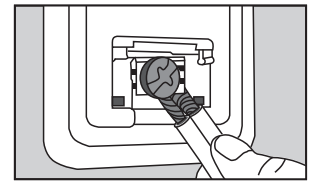
- ④ 浮いた座金の下にアース線の銅線を入れます。



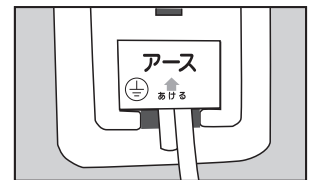
- ⑤ ネジを時計回りに回して固定させます。締め過ぎると銅線が切れるので注意してください。



- ⑥ アース線を軽く引っ張り、線が抜けないか念のために確認しましょう。



- ⑦ フタを閉じて完了です。



3：プラグをコンセントに差し込む

プラグを差し込むとパイロットランプが点灯します。この状態で待機完了です。(※ランプが点灯しない場合は、アース付のコンセント配線に問題がある可能性があります。電気工事店における電気配線の確認後、再度設置をお願いいたします。)

仕様

定格電圧	AC100V(50/60Hz)
適応相線式	単相2線式
適応主幹ブレーカー	漏電ブレーカー 高速形 30mA 感度
設置場所	接地用端子の付いたコンセント
地震感知	震度5強 ※ガイドラインの震度5強に対応しています。 250gal 周期0.5sにて動作 80gal 周期0.5sにて不動作
付属品	両面テープ… 1 取付ネジ… 2 水平器… 1